園児自信 野菜嫌

栽培・収穫・調理体験

けにして、用意した段ボー ピーマンもにんじんも食べ

しますよ」「 はー い」

「これから野菜の収穫を

園児たちは、保育園の**そ**

っています。

四十年以上前から近くの畑 ま。いずれも有機肥料を使 やまよし保育園。 同園では とにたまねぎやトマト、じ 調理をしています。 季節ご で野菜を育て、園児が収穫、 がいもなど種類はさまざ

で母親の手伝いをするとい た野菜を切り分けます。家 ども用の包丁を使い、洗っ 鍋。エプロン姿の園児は子 この日の献立はちゃんこ

畝に沿って並ぶと、目の前 ばにある畑に向かいます。

には養分たっぷりの土から

掛け声に合わせ、数人がか

顔を出す大根や白菜、水菜。

おいがする」。手を泥だら りで収穫します。「土のに

う年長児は「料理は好き。

ルに野菜を詰めました。 西宮市山口町下山口四

取りたての野菜を手に笑顔の園児た ち=西宮市下山口、やまよし保育園

られるよ」と笑顔

鍋物やいため物、サラダな が料理を振る舞うレストラ けています。同園は年に一 ハパーティー があります。 調理では衛生面に気を付 保護者を招き、 園児ら

「保護者がすることを自分 なり、食べ物の大切さを実 つながる。 野菜嫌いも無く たちでできる喜びが自信に

ど多彩なメニュー で保護者 からも好評だそうです。 同園の平見和子副園長は

北夙川小



―西宮市石刎町の北夙川小学校骨をテーマにカルシウムの大切さを学ぶ児童

ぬ」生徒に浸透

ました。この一年あまりで

期は0・3%に大きく減り

減った残量は、ご飯に換算

すると三千七百十四人分に

カルシウムの大切さ学 習

てきました。 役目を尋ねた学校栄養職員の古野和子さ 前にした食育授業のひとこまです。 骨の 分の一成人式おめでとう給食」の実施を んの質問に、児童から元気な答えが返っ 石刎町の北夙川小学校の四年三組。「二 カルシウムについて考えよう」

五歳ごろをピークに骨量が減り、 特に女

たグラフが示されました。 男女とも二十

まれるよ」と古野さんは話しかけました。 品を食べてね」「色の濃い葉野菜にも含

最後に、年齢を横軸に骨量を縦軸にし

性の落ちこみは明らかです。「大変」「ど

つするの」と声を上げる児童に「ビンゴ

て、骨の仕組みやはたらきを学びます。 歳時の手のエックス線写真の略図を貼っ す。黒板には、生後六カ月、九歳、二十 続いてカルシウムビンゴゲーム。 四年生は骨の急激な成長期に当たりま

> いよ」と、改めてカルシウムを含む食品 夫。 今からしっかり食べておけば心配 ゲームで出てきた食べ物があれば大丈

の大切さを伝えました。

九つのますに書き込みます。「牛乳」「チ ゃもなど二十種類の食品があり、それを 長に欠かせない食品を知る試みです。 上げられ、一列に並んだ児童は大喜び。 ・ズ」とカルシウムが豊富な食品が読み 牛乳が苦手なら小魚や海そう、大豆製 配られたプリントには、バナナやし

食育授業

楽園中



「残さず食べてるよ」、空っぽの食器が生徒の思いを代弁 = 西宮市苦楽園三番町の苦楽園中学校

は3・4%、二年後の一学 4・95%でしたが、一 して各クラスで競っていま 同中の給食残量は当初は

食終了後に残量を調べた本格的に始めたもので、給 り、三種類のシールを使用 ます。生徒会が四年前から 楽園中学校で展開されてい 組みが、苦楽園三番町の苦 ヤンペーン」と題した取り 「給食残量をなくそうキ

ラスごとに表に貼っていき シール」などのシールをク

作り手の調理員の思いを伝 年生の道徳の授業では、

れた食器を見て、「パーフのリフト室で待機。 返却さ 代で給食時間の前後に食器 ェクトシール」「 残量ゼロ 徒がいます。 厚生委員は交 計二十六人の厚生委員の生 減ったのでしょうか。 同中には、各クラス二人 なぜ食べ残しがこんなに

減っていくことがうれしい」識することで、食べ残しが

事をとれない子どもたちが うな発表をしたりします。 デオを見たり、食べ物への える給食プロモーションビ 務めた三年生、井阪仁美さ その結果、残さないのが当 委員が「感謝の気持ちで食 んは「みんなが少しずつ意 に浸透しているようです。 たり前」という意識が生徒 ることは幸せ」とアピール。 いる。毎日給食を食べられ 給食新聞などを通して厚生 感謝の気持ちを持たせるよ ベよう」「世界には十分に食 十二月まで厚生委員長を